

2009年度 修了

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
田村 聡子

### 言語的フィードバック能力の向上支援

大学での教員養成課程において、実技系教科での実践的指導力の育成が必ずしも十分でないことが指摘されている。体育科において、実技ができないことは言語的フィードバックによって、児童の運動と目標とする運動の誤差を指摘することができれば、教師自身が実技見本をできない場合でも、体育での実技指導をすることが可能になると思われる。そこで、本研究では、小学校教員志望者の学生7名を対象に、言語的フィードバックをするための能力を、身体部位、姿勢を2つ以上の身体部位で表現したもの(以後、身体部位間)、身体部位と動かない物体などの空間での位置づけ(以後、空間)、運動表象における局面(以後、局面)の以上4つの向上で測り、それらの発言数を増加させることを目的とし2つの実験を実施した。実験1では、5つの技の動画を提示し、技ごとに2種類の動きを交互に観察しそれらの違いを説明することが、対象者の言語行動に与える影響を検討し、実験2では、写真の姿勢の説明と曲線の作図をすることが5つの技の動画の言語化に与える影響を検討した。その結果、両実験を通して対象者7名で言語的フィードバックをするための能力の向上が確認され、以下3点のことが明らかになった。第1に、5つの技の動画を見ることによって、身体部位と局面の増加に特に効果が見られた。第2に、姿勢の説明と曲線の作業をすることによって、身体部位と局面と身体部位間の増加に特に効果が見られた。第3に、身体部位の空間での位置づけに関する発言数は写真の姿勢の説明数が多い対象者ほど発言数が多かった。また両実験の結果から、1つの技で気づいたことが、他の技を見る視点になることがわかり、動画を用いなくても、写真の姿勢を説明することや曲線の作図をすることで、動画の違いを言語化できるようになることが見受けられた。